

弘経寺だより

発行所
 寿亀山弘経寺
 〒303-0041
 常総市豊岡町甲1
 Tel.0297-24-0895

忘れない

主管 金田大祐

平成二十二年初夏、北海道部内の浄土宗は重鎮を二人も同時に失った。四月にご遷化された坂手極楽寺の石塚寿明上人、五月にご遷化された横曾根法性寺の飯沼嶺静上人、水海道浄土宗に大きな穴が一度に二つも開いてしまった。

石塚寿明上人には当山のお施餓鬼やお十夜の際に楽しいご法話をいただいた。笑顔を絶やさずに聴衆に語りかけるお姿が今でも臉に焼き付いている。

飯沼嶺静上人は仏教美術の鑑識において非常に優れた方であった。当山七十二世の大江学翁上人の書画について大変興味深いお話を伺ったり、近代日本の絵画や工芸についてご教示をいただいたりした。

第39号
 私は石塚上人、飯沼上人にお世話になった思い出を死ぬまで忘れないだ

ろう。「忘れない」ということは私が生きている間はお二人は「善知識」となつて、ずっと私をお導き下さるということだ。もう決して会えないにもかかわらず、忘れないでいるということ。はとでも辛く悲しいこともある。忘れないが故に悲しみに打ちひしがれることもあるが、忘れてしまうことはもつともつと辛く悲しいことである。

人間とは記憶する(忘れない)動物である。故に、人間として生きるからには、命が終わるその日まで、記憶の中の悲しみと同居しながら生き続けなければならぬ。釈尊は人間の一生は「一切皆苦」だと言いつつ放つた。私は釈尊の教えから、悲しみと同居しながら生き続ける覚悟を学ぼうと思う。

開山上人ご命日法要

5月12日は当山開山嘆譽良肇上人のご命日でした。午後2時より開山上人のご回向をいたしました。また四月十日に本堂においていただいた「開

山上人像」をダイカンにお乗りいただき、開山堂へお送りいたしました。法要にご参列くださり、お手伝いくださいました皆様、ありがとうございます。

県外地区棚経

七月十四日(水)15日(木)、世話人担当外地区の棚経をします。特に東京都千葉県、埼玉県にお住まいのお檀家様が対象となります。棚経をご希望の方は、同封の棚経申込用紙にご記入の上、お申込みください。

五月の写経会 五月二十二日(土)

付	話	経	仏	談
受	法	写	お	懇
1:45	2:00	2:20	2:50	3:10

会費一〇〇〇円(高校生以下は五〇〇円)

携行品 小筆(当日受付でも販売いたします)

※毎月第四土曜日に開催しています。どなたでもご参加いただけます。

編集後記

私はしばしば「忘れてはいけないこと」を忘れる。

先月号の弘経寺だよりにて、お菓子のご寄付をしてくださった方のお名前を紹介させていただいたが、飯沼の海老原政夫さんに沢山のお菓子をご寄付いただいたにもかかわらず、お名前を掲載するのを忘れてしまった。海老原さんはこの度の開山忌・天樹祭において、広告・PR活動において多大なるご協力をしてくださった方である。そんな大事な方なのに、ご紹介し忘れてしまった。

「忘れない」と「忘れる」こと、この違いは何処にあるのだろうか？その違いはおそらく「脳の働きの違い」だと思うのだが、「忘れること」による無礼はそれだけでは済まされない。「もしかしたら、他にも失礼してしまっている方がいらつしやるかもしれない…」そう思うとぞつとする。

弘経寺だよりについて何かお気付きのこと等お教えいただけましたら、有り難く存じます。よろしくお願い申し上げます。

お悔やみ

阿弥陀様の慈光の中、次の方々が極楽へ往生されました。

ご冥福をお祈り申し上げます。

五月 二日 松本千代子殿 七五歳

五月 九日 片庭静枝殿 八八歳